高校2年生対象　進路講演会が開かれました　2026.6.19

本校では、各学年が工夫して、様々な年代の OB による講演会を随時開き、生徒の進路選択に役立てています。今回は高校２年担任団が、本校 71 期（2022 年卒業）の河野太郎氏を招き、進路講演会を開きました。年が６つしか違わないこともあって、生徒たちは親近感をもって熱心に話を聴き、質疑応答でも質問が次々に出て盛り上がりました。以下は、河野氏を呼んだ高２担任にまとめてもらった文章です。

現在東京大学の修士 1 年目に在籍している河野さんは、ご自身の専門である都市工学・都市計画のエッセンスを紹介した後、「高２の後輩に伝えたいこと」として例えば以下のようなことを話してくれました。

◎何かを選ぶとは何かを選ばないこと。高校時代の選択は思いのほか大学へ行ってから変えられる。例えば、高校の同級生にも、文系に進学したが農学部へいった人や、理系だったが経済学部へ行った人がいる。

◎ラ・サール在学中、「これは自分に関係ない」という態度をとらないようにしていたことはよかった。高校の時に「あまりおもしろくない」と思っていたことは、実は自分にそれを楽しむだけの知識がまだなかっただけかもしれない。

◎自分が何に興味があるか、ということは自分で探しに行かないとわからない。

◎（高校で先生から教えられた言葉として）どの専門分野に進んだとしても、その分野に一生をかけている人が必ずいる。自分にとってはたいしておもしろくないものもほかの人にはとってもおもしろい。自分でおもしろいと思うからこそ続けられる。

◎（高校の時、すでに大学生だった OB から聞いた言葉として）興味の範囲は広ければ広いほどおもしろい。自分の知識を総動員して何かに向かう快感を、高校生はまだ知らない。

これらの言葉の多くは、先生や先輩、友人とのやりとりを通して河野さんに刻まれた言葉であるそうです。

いつ、どんなふうにしてこれらの言葉と出会ったのか。どのような経緯でその言葉が自分にとって価値を持つものになったのか。河野さんはそれを具体的に語ってくれました。人との関わりを大切にして、言葉を交わすことを楽しみながらここまできたことが伝わってきます。

学問を志すことに対する刺激をたくさん得るとともに、ラ・サール在学中に友人たちと言葉を交わしあえる幸せを、生徒たちも改めて意識できたのではないでしょうか。

講演の様子

講演の様子

質疑応答の様子

生徒の反応